

令和5年度学校関係者評価委員会報告書

1. 学校関係者評価委員会開催概要

【日 時】：令和5年07月14日(金) 15:10-16:10

【場 所】：日産自動車株式会社 市沢教育センター 第2研修館 3F 301 会議室

【参加者】：<評価委員> 団体代表 森下義幸様 (一社)神奈川自動車整備振興会 専務理事
柏木勝巳様 (一社)神奈川自動車整備振興会 教育課 課長
企業代表 金子裕次様 日産自動車販売株式会社 サービス部 部長
卒業生代表 岡本周子様 神奈川日産自動車株式会社 サービス部 課長
日産学園代表 玉生久典様 学校法人日産学園 教育企画部 部長代理
<学校事務局> 学 校 長 市橋 天
教 頭 古畑 雅人 (教育部長兼務)
学務部部長 橋本 恭子
教育部課長 岩田 利興
教育部課長 山澤 真二郎
学務部課長 武田 猛
学外委員 日産自動車(株)アフターセールスリテンション部 主担 大羽 拓
<オブザーバー> 本廣好枝様 (学校法人日産学園 学長)

2<議題・展開事項>

- 1) 新メンバー挨拶
- 2) 前回会議の指摘事項の振り返り
- 3) FY22 自己評価と意見交換
・7-1:評価3 学生の募集を適性かつ効果的に行っているか

3. 議事

1)前回会議の指摘事項の振り返り

■5-4:評価3 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか?

■3-3-1、2:評価4

ディプロマポリシーに謳う人間力の定量検証を全学年実施したので、その結果の報告

2)FY22 自己評価と意見交換

【基準7:学生の受け入れ】

■7-1 評価3 学生の募集を適正かつ、効果的に行っているか

・神奈川・東京での入学者低迷での対大学での差別化の為、一級の魅力、専門学校の魅力向上の為の方策や事例・アイデアをご教示お願いします。

評価委員：一級は現場のリーダーの役割が期待されるが、かつてみんなが工場長を目指した時代とは異なり、昇進やキャリアパスについて価値観が多様化している。一級保有者の優秀な人財に対し販売会社としても具体的なキャリアパスやビジョンを創っていかないといけない。

評価委員：一級も二級も入社後に携わる作業は同じだが、二級保有者は一級取得を、一級保有者も日産の社内資格の頂点であるマスターテクニシャンなど技術力の向上を目指してほしい。

評価委員：整備科より2年間長く修学していることやグループ研究など豊富な経験をしているので、受付対応力は工学科学生はしっかりとしている。

評価委員：工場長候補としては一級卒業生は有力だと思う。

学校：専門学校卒の社員の印象は？

評価委員：社会人としての振る舞い、マナーなどが身につけている点は明らかな違いとして感じる。人間力が優れている。

学校：整備振興会での一級の強みは？

評価委員：一級に特化はしていないが、団体としても整備士の魅力・認知度向上の為に、定期点検整備のPR、映画館での15秒CMやバスのラッピング広告・ポスター掲示などを始めている。

評価委員：振興会の一級養成コースに来る人は目標が高い人が多い。課題は3級から2級が少なく、責任範囲が広がることを敬遠する声もある。整備士の魅力PRの為に中学校への出前授業やパシフィコ横浜での「子供の仕事体験フェスタ」などに参加している。日産自動車も出展していた。簡単なタイヤ交換は部品交換体験で「なおす楽しさ」を伝えたい。

評価委員：なぜこの業界に来たのか動機を考えてみた。元々「なぜ車が動くのか」に興味を抱き、資格取得やスキルアップのおもしろさや、技術が進化している今の車にも対応できるという自己満足が自分の動機。

評価委員：自分は「手に職を」と考え、「車はなくなる＝業界の安定性」が動機。

評価委員：大学に進学しても資格はとれない。国家資格取得はアドバンテージ。一級を取得することで幅が広がり、より自分の思い通りに車が扱えるようになる。楽しく仕事をするために資格が大事、ということだと思う。

学校：学校としても、資格を持つことが、将来の仕事の巾を広げたり、ステップUPするための財産であることを伝え切れていない。

以上